

ギャラリー・パルク

小出麻代

とるに足らぬものなど何ひとつない



とるに足らぬものなど何ひとつない

展覧会名

Nothing is insignificant

小出 麻代

出展作家

Koide Mayo

2024年3月8日[金]—31日[日]

会 期

13時から19時まで 水・木休廊 *20日[水・祝]は開廊

トークイベント

関連イベント

「これから \ これまで」

小出 麻代 × 畑井 恵(水戸芸術館現代美術センター 学芸員)

3月17日[日] 15時から17時

定員20名程度(申込不要 / 先着順受付)



ギャラリー・パルク

会場・主催・
お問い合わせ

Gallery PARC

602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287 堀川新文化ビルディング 2階

075-334-5085 / info@galleryparc.com / www.galleryparc.com

○地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分

○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分

○京都市バス9番・50番(JR京都駅より約22分)・12番(阪急烏丸駅より約15分)系統

「堀川中立売」バス停下車徒歩1分

○駐輪場・駐車場 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

アクセス

小出麻代(こいで・まよ)は、物や場所、時間や環境、経験が人間の「こころ」にどのように作用し、そこからどのような関係が生じ得るのかに関心を寄せています。

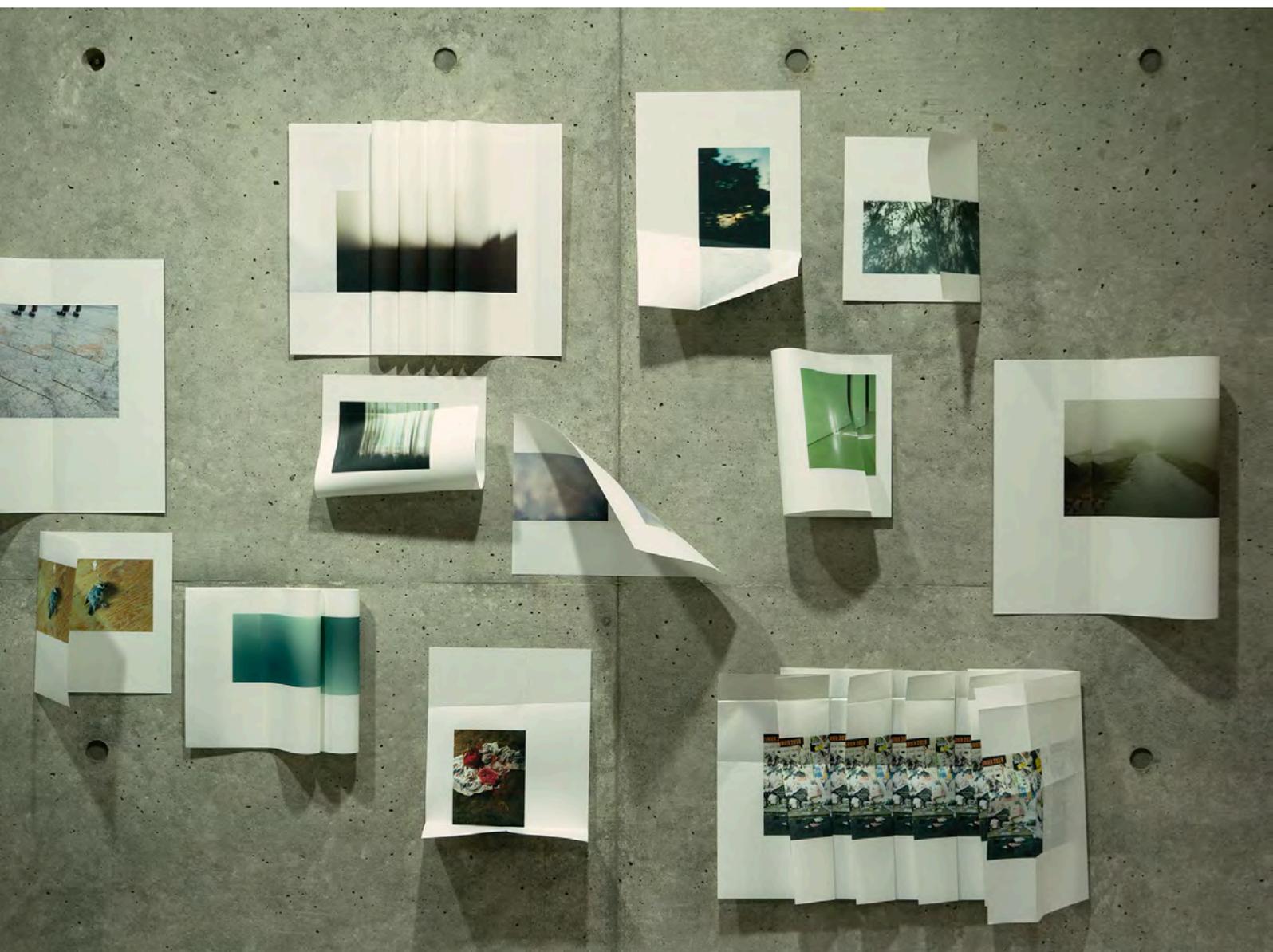
ガラス・鏡・電球・糸・紙・落ち葉・枝・針金・光などの日常の断片とともに、シルクスクリーン、サイアナタイプなどによる写真プリント、シリコンによるオブジェクトなどを多層的に組み合わせたインスタレーションは、鑑賞者の経験や記憶などと関係することで、そこにそれぞれの風景を立ち上げます。

また近年では様々な土地と人々に取材しながら収集した場や地域の「歴史や記憶の断片」をも素材のひとつとして、オブジェクトや映像と関係させたインスタレーションを積極的に発表しています。

小出の目によって選ばれ、手によって並べられたオブジェクトや言葉、写真や映像などは、いずれも大きな記憶や歴史の断片であったり、長い時間の中の一瞬でしかありませんが、そうした断片を寄せて、重ねて、関係させることで、「いま」を取り巻く不可視の要素のあり様や関わりに気づきをもたらします。小出は「見えるもの / 見えないもの」を等しく眼差し、拾遺したその断片を時々において組み合わせ、「もの / もの」や「もの / ひと」の関係をつくりだします。そして鑑賞者はそれぞれの関係を追いかけて、そこに生じる一瞬の光景に出会うため、目の前の作品や空間を「よく見てみる」ことを促されます。

本展は、近年に小出が取り組んできた作品制作の過程で用いたものや、一旦は不要として取り置かれてきた様々な要素を見つめ直し、改めて組みあわせることに主眼を置いたものです。こうして小出は自らの記憶をも含めた様々な時間や背景の断片を組み合わせ、その違いを補完し合いながらも新たなあり様を生じさせます。

外を取材し、内に取り込んできたこれまでの作品制作とは異なり、現在までの自身の記憶や経験をも大きな因子として、内と外をいわば入れ子の構造に置くことで、そこに新たな回路を開こうとする本展は、小出らしい取り組みであるとともに、新たな試みであるともいえます。



この展覧会は、過去の作品で用いてきたものの残りや、作品から溢れ落ちたものなどで構成されています。

そこに、穴や傷、折れ、曲がりなど、これまで自身の作品から遠ざけてきた要素を受け入れ、技法として加えることで、「呼び継ぎ」*のように、「新しさ」だけでは到底辿りつくことができないような佇まいの何かを生み出したいと思っています。

それは、ものだけの話ではありません。

かつて、思想史家の藤田省三が「新品文化」と名付けた時代から、

さらに加速したこの社会に抗うために小さな穴をひとつ開けて、空気を、光を、風景を、流れを少しだけ変化させてみます。

いま、その中をわたしは、過去の自分に、時間に、手を振り返しながら歩いています。

小出麻代

小出麻代
<https://www.mayokoide.net>

ある場所や環境に結びつく記憶を読み込み、社会の大きな流れの中で言語化された/されなかったところの動きを、作品空間に表出させるを試みる。他者や自身の言葉、オブジェクト、写真や映像などの要素を、発表場所の持つ特性と重ね合わせ、生じる光や音、空気の揺れなども含めたインスタレーション作品を制作する。

大阪府出身・在住

2009 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻修了
2017～ 京都精華大学芸術学部非常勤講師

主な展覧会

- 2023 個展「声声が灯して The polyphony of our narratives」(尼崎市総合文化センター / 兵庫)
- 「光のむこう側で」(京都精華大学ギャラリーTerra-S / 京都)
- 2022 「NICE TO MEET ART2022『庭の音/garden notes 小出麻代・山本理恵子』」(クロスホテル大阪 / 大阪)
- 2021 個展「月に日に with months and days/suns and moons」(VOU棒 / 京都)
- 「ALLNIGHT HAPS2020『翻訳するディスタンス』」(HAPS / 京都)
- 2020 個展「黙字」(千鳥文化 / 大阪)
- 「日日の観察者」(HOTEL ANTEROOM KYOTO Gallery9.5 / 京都)
- 個展「形代-かたしろ」(オーエヤマ・アートサイト / 京都)
- 2019 個展「うつしがたり」(枚方市立御殿山生涯学習美術センター / 大阪)
- 「トロポスフィア-素材が開く新しい世界」(京セラギャラリー / 京都)
- 2018 個展「地に還る-地から足を離す」(Gallery PARC / 京都)
- 「生業・ふるまい・チューニング 小出麻代-越野潤」(京都芸術センター / 京都)
- 2017 個展「うまれくるもの」(あまらぶアートラボA-lab / 兵庫)
- 「empty park」(Gallery PARC / 京都)
- 2016 「連鎖とまたたき」(京都精華大学ギャラリーフロール / 京都)
- 「PAT in kyoto 京都国際版画トリエンナーレ2016」(京都市美術館 / 京都)
- 2015 「まちの中の時間」(あまらぶアートラボA-lab / 兵庫)
- 「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2015 枯木又プロジェクト」(旧中条小学校枯木又分校 / 新潟)
- 「still moving『SUUJIN MAINTENANCE CLUB』」(元崇仁小学校 / 京都)
- 2014 個展「空のうえ 水のした 七色のはじまり」(the three konohana / 大阪)
- 2013 個展「すいこみ はきだし ひろがる」(LABORATORY / 京都)
- 2012 「1floor2012『TTYTTT,-to tell you the truth,-』金井悠、小出麻代」(神戸アートヴィレッジセンター / 兵庫)
- 2010 個展「nu show」(AD&A gallery / 大阪)
- 2009 個展「Lights, Camera, Action」(AD&A gallery / 大阪)
- 個展「mockmentary garden」(番画廊 / 大阪)

受賞

2023 尼崎市文化未来奨励賞

アーティスト・イン・レジデンス

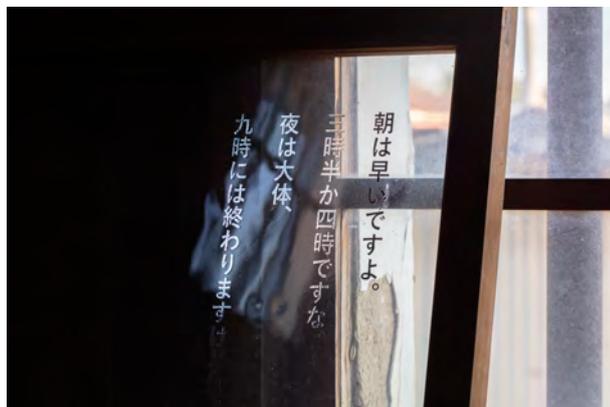
- 2018 「END OF SUMMER」(YaleUnion / ポートランド・アメリカ)
- 2013 「artFUNKL residency [Aspirus 04]」(artFUNKL / マンチェスター・イギリス)



《The polyphony of our narratives》
個展「声声が灯して」(2023 尼崎市総合文化センター / 兵庫) 展示風景
写真：松見拓也



《月に日に》
個展「月に日に-with months and days/suns and moons」(2021 VOU / 京都) 展示風景
写真：松見拓也



《形代-かたしろ》
個展「形代-かたしろ」(2020 オーエヤマ・アートサイト / 京都) 展示風景
写真：妻生田兵吾



《むこう側から》
「生業・ふるまい・チューニング 小出麻代-越野潤」(2018 京都芸術センター / 京都) 展示風景
写真：表恒匡